

## 判断力・表現力を高める国語科授業開発

### ―パネルディスカッションによる自律的な生徒の育成―

教育実践研究科 教職実践専攻 教職実践基礎領域  
鈴木 大文

#### I はじめに

##### 1 今、求められている生徒の学力・人間性

###### ―「習得」「活用」の重視―

改正教育基本法・学校教育法を受けた新学習指導要領は2008年3月に告示された。改訂のポイントで重要な点は、「習得・活用」の重視による課題解決能力の指導である。

「総則」の解説では、「確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある」と指摘されている。「習得」と「活用」の系統・段階を重視した実践的な指導を具体化する必要がある。

##### 2 「自立・協働・創造」をはぐくむ教育

###### ―「第2期教育基本計画」の背景から―

「第2期教育振興基本計画(答申)」(中央教育審議会・2013年6月)では、「社会を生き抜く力の養成」「自立、協働、創造に向けた力の修得」、そのために必要な「21世紀にふさわしい学び(21世紀型学力)」の創造が求められている。「21世紀型学力」とは、学習者が互いに理解を深め合い、あるゴールを達成するにつれて新しいゴールを見出し、新しい課題を自ら設定してそれを解きながら前進していく創造的で協調的なプロセスを引き起こすスキルである。

社会の変化が激しく、価値観の多様化が進行し、未知の課題に直面する現代においては、個人の幸福実現、社会全体の持続的成長・発展に向けた方向性を一律化して考えることは困難であると考えられる。それぞれの立場において、様々な方向性を批評的・創造的に見出しながら実現していくことが必要となる。そのため、今後は一人一人が個人として自立し、自己の個性・能力を生かし、他者と協働しながら新たな価値観や生き方を創造していく柔軟な子どもの育成を目指す必要がある。

##### 3 実習校の実態から―学校・校区・生徒の特徴―

###### (1)学校・校区の特徴

実習校は、教育目標を具体化する「All Fight」の精神をあらゆる活動の基盤としている。生きる力を身に付け、21世紀をたくましく生き抜くことのできる知・徳・体の調和がとれた生徒を育成することを教育目標として掲げている。

豊橋市立A中学校は豊橋市内中心部に位置し、創立

65年度の豊橋市内でも有数の伝統校である。学校全体で20クラス、生徒数623名(平成25年12月28日現在)であり、中規模校である。4つの小学校からA中学校に進学し、校区内には高等学校が3校、大学が1校存在し、教育機関が充実している。そのため、学習に対して熱心な家庭が多く存在する。

昔から住んでいる人が多く、豊橋市立A中学校校区であることに誇りをもち、行事等に協力的な保護者・地域住民が多い。

###### (2)生徒の特徴

真面目な生徒が多く、日々の生活も落ち着いており、校内暴力や着装が乱れている等の姿を見ることはほとんどない。

学力面では定期テストや小テストの様子を見ると学習内容を習得することはできている。非常に優秀な生徒が多く、授業中では「習得」だけではなく「活用」の場面でも多くの生徒が活躍している。

#### II 国語科に求められること

##### 1 第2期教育振興基本計画より

他者と協働しながら新たな価値観や生き方を創造していく柔軟な能力を身に付けた子どもを育成するためには、「第2期教育振興基本計画(答申)」(中央教育審議会・2013年6月)のキーワードである以下の三つの観点から授業開発や提案を行う必要があると考えられる。

- ①「自立」…一人一人が、多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていく能力
- ②「協働」…個人や社会の多様化を尊重し、共に支え合い、高め合い、社会に参画することのできる能力
- ③「創造」…上記2つの能力を通じ、更なる新たな価値・生き方を創造していくことのできる能力

##### 2 学校全体、各教科を支える基礎的な言語力

21世紀を生き抜く子ども達に「社会を生き抜く力」「自立・協働・創造」的な学びをはぐくむために、「自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力等の育成を重視」、「特に思考力・判断力・表現力等の効果的な育成に向け、各教科等を通じた言語活動の充実を推進する」とある。

これを踏まえ、学校教育全体の中で国語科が果たす役割とは、①漢字や語彙・概念の理解やメモの技術、話す態度・聞く態度等の基礎学力段階、②説明文や物語文の読み方、話す・聞くための基本学習段階、③自分の考えをもち、論理的に伝え合うための発展学習段階、④

学習を振り返り、学びの一般化・経験や生活、読書に生かす評価・一般化学習段階、⑤各教科・活動・体験等で身に付けた知識・技術、学び方を生かした探究型学習段階。以上の5つの学習段階を通して、他教科や学校教育活動全体、生活に生かせる能力の習得である。

【表1】国語科における「習得・活用型学力」の学習過程

学習段階	習得から活用への学習段階(学びのステップ)
1基礎学習【習得型学習1】 全ての教科の基礎となる学力を育てる学習段階	①話す態度や姿勢・話型 ②メモやノート指導 ③聞く態度や基礎 ④漢字や概念・知識理解と活用の基礎(語彙力、諺、故事成語等)
2基本学習【習得型学習2】 国語科固有の基本となる学力を育てる学習段階	①話す聞く(伝え合う)基本学習…話型・文型、キーワード、具体例と根拠(理由)、レポートの書き方を生かしたスピーチ等
3発展学習【活用型学力1】 「自分の考え・意見をもつ」「論理的にわかりやすく書く『型』」を育てる学習	①自分の立場や興味・関心から「自分の考え(解釈)」をもつ、②「自分の考え」を論理的にまとめる(一貫した主張と構成、キーワード、題名等)
発信・交流学習【活用型学力2】 論理的に伝え合うための言語力を身に付ける学習段階	①「発信」技術の基本モデル学習…効果的に伝えるための基本技術、②「交流・学び合いを深める」技術の基本モデル学習から活用へ…目的・相手・場面・条件等に応じて、論理的に伝え合う
4評価・一般化学習 自己(相互)評価、他教科や生活経験に生かせるような「学びの一般化」の視点を育てるための学習	①単元全体における「学びの到達度」のチェック…自己評価能力 ②新たな課題発見・疑問がもてる…他教科や生活場面での活用へ ③学習の「メタ認知能力」を育てる…内容の価値や学びの方法、一般化への活用、自己内対話等
5探究型学習 国語学習から他教科への活用、言葉と体験の重視へ	①国語科における総合発展学習 ②プレゼンテーション、情報リテラシー、たくましく生きる主体性と批評精神

### Ⅲ 学級づくり実践(教師力向上実習Ⅰ)

#### テーマ

他者との関わりを通して自己を見つめ、  
互いに高めあえる学級経営  
—国語科、道徳を通した実践を中心に—

#### 1 テーマ設定の背景と実践計画

昨今、パソコンや携帯電話の普及により、集団で直接的に関わるのではなく個々が間接的に関わるコミュニケーションツールが増えている。そのような状況の中、他者と直接的にコミュニケーションを図り、円滑な人間関係を構築する技術を習得する必要がある。そこで、温かい人間関係を構築することができる生徒を育てたい。

目指す生徒を育てるためには、教育活動の中で他者の生き方や教材に登場する人物の生き方、教材を読む中で表明される仲間の意見から生き方・考え方を関わる必要がある。その中で自分の思いや考え方を相手に伝える力や相手の気持ちを理解し、共感する力を身に付けさせる。そうすることで、自分の考えを伝えられる関係、他者を受け入れられる関係を作ることができる。

こうしたことから、「他者との関わりを通して自己を

見つめ、互いに高めあえる学級経営—国語科、道徳を通した実践を中心に—」をテーマとして設定した。本実践では、「話す・聞く」の基礎・基本学習から論理的発表原稿を作成し、スピーチ活動を行い、交流・評価・一般化の学習を行う。

わかったこと・考えたこと・友達の考えや意見の良さを伝え、疑問をもち、相互に学び合い発展させることのできるスピーチ活動を行う。そうすることで自分の考えを伝え、他者の良さをみつめ、心からお互いを認め合えるような子どもを育てていきたい。

【表2】「習得・活用」の段階的な学習計画

学習計画		
学習段階	時	主な学習内容
習得1 (導入・基礎)	1	1 教師のモデルスピーチを聞くことを通して、「伝え合う」ことの楽しさ・難しさを知る。 2 スピーチ学習を行うことを知る。 3 情報を論理的に理解するための聞く技術を知る。
習得2 (基本)	2	4 スピーチ学習を行うために、効果的な説明技術を知る。 ①論理的な構成 ②自分らしい題名の付け方 5 スピーチ学習をするために情報収集を行う。
活用1 (発展)	3	6 わかりやすくスピーチをするための発表原稿を作成する。
活用2 (発信・交流)	4	7 発表原稿を推敲する。 8 スピーチ練習をする。
評価 一般化	5	9 発表原稿・資料をもとに発表する。 聞き方の観点をもとに、発表の感想を書く。 10 学習を振り返る。 11 勉強になったことや、授業を通して、できるようになったことを整理し、他教科、活動等に一般化する。

#### 2 実践内容

##### (1)導入・基礎学習【習得型学習1】(1時間)

生徒の興味・関心を引くためにスティーブ・ジョブズのプレゼンテーション風景を見せた。スティーブ・ジョブズの聴衆に訴えかけるプレゼンテーションは、スピーチの必要性を感じさせることができた。

その後、学習シートを用いて、聞く観点やメモの観点を学習した。実践編として、聞く観点やメモの観点をもとに教師のモデルスピーチを聞き、メモさせた。

##### (2)基本学習【習得型学習2】(1時間)

スピーチの題材を生徒に選ばせるために、マッピングを行わせた。マッピングの学習方法がわからない生徒のために教師のマッピングモデルを板書し、生徒に示した。マッピングを行うことで、自分の興味・関心をキーワードで書き出し、発想を広げることができた。また、様々な発想を顕在化するマッピングは、楽しく意欲をもって学習活動を行うことができた。

その後、スピーチの題材を選択させ、発表原稿を作成するための組み立てメモを作成させた。

(3)発展学習【活用型学力1】(1時間)

スピーチ原稿を作成する前に原稿作成のポイントを説明した。構成を意識する上で、「はじめ」「なか」「まとめ」「むすび」のポイントを示した。単元最終時に、1 分半程度のスピーチをすることを告げ、約 600 字程度のスピーチ原稿を作成させた。(資料 1 参照)

(4)発信・交流学习【活用型学力2】(1時間)

推敲・題名の付け方のポイントを学習シートで学習した後、グループでスピーチ原稿を見せ合い、良さや改善点を伝え合わせた。良さや改善点を伝えるために付箋を利用した。赤色の付箋は、スピーチ内容について書かせ、青色の付箋は、スピーチ方法（声量、間、速さ等）について書かせた。付箋を使うことで、相手に良さや改善点を伝えやすく、友達に多くのアドバイスをする姿が見られた。さらに、残りの時間でスピーチ練習をさせた。

(5) 評価・一般化学習(1時間)

導入で、「話す」ポイントと「聞く」ポイントを確認した。その後、グループでスピーチ活動を行った。グループ編成は教師が、学力均等、仲良し同士、前時と同じグループでないもの同士等を配慮して構成した。各グループにあらかじめ教師が意図的に決めた司会者を置き、司会者に話型を与えて司会進行をスムーズに行えるようにした。時間配分は教師が一括して行った。そうすることで学習活動にめりはりがついた。グループ発表後は、代表生徒一人が全員の前で発表し、発表の良さをクラス全体で共有した。その後、単元全体の振り返りを行わせた。

### 3 実践の考察

### (1)実践の成果

本実践では、他教科、学校教育活動全体に生かすことができる「スピーチのための基礎・基本的な能力」を育てるという観点から「話題をとらえて話し合おう」という単元を設定し、「話す・聞く」の技術を習得し、それを活用することに焦点化して指導を行った。

実践成果の要点を以下 2 点にまとめる。

### ①段階的な指導

本単元では、生徒の興味・関心からスピーチを行うために、「スピーチ原稿を論理的に書くこと」を「活用段階」に位置付けることにより、「習得」で身に付けるべき基礎的・基本的学力が明確になった。これにより、段階的な学習過程を構成することができ、習得で身に付けたことを生かし、生徒は、自分なりのスピーチ原稿を作成することができた。また、習得段階で身に付けた学習事項を活用することができた。(表2 前項参照)

今回、学習過程を5段階に設定した。5段階に分けることで各段階の指導事項を焦点化することができる。分けずに行ってしまうと、習得と活用が混乱して、どのような力が身に付いたのかわからないまま終わってしまう。基礎・基本で身に付ける力、発展的な学習で

## 資料 1 スピーチ原稿

「好きなもの・おすすめ」についての意見文を論理的・個性的にまとめ、「考え・解釈」をわかりやすく伝える技術を学ぶシート。

「はじめ・なか・まとめ・むすび」の論理的・個性的な文章構成(4段階構成)でまとめさせた。

それぞれの項目で書き方のポイントを示すことで、全員が書けるように配慮した。また、習熟度別(3段階)にスピーチ原稿を用意し、書き出しやまとめ方を補助した。

[illegible]

身に付ける力を明確に示すことで、生徒達に学習の見通しをもたせることができる。

また、学習過程を5段階に設定することで、学んだことを以後のステップに生かすことができた。「学びを次の段階に生かすこと」を繰り返し行い、言語技術の定着を図ることが中学校一年段階では必要である。これにより、中学校二年、三年、高校になった際、「多くの資料・情報を収集することはできるが、それらを判断し、表現するために、再構築することができない」という状況にならない。段階的に指導をすることは、有効な方法であると考えられる。

## ②系統的な学習シートの開発

学習シートは単なる穴埋めや答えや考えを書き込んだりするのではなく、学習したことを生徒が振り返り、自覚できるようにする必要がある。そして、基礎的・基本的な学習事項の学び方を学び、さらなる学習意欲を引き出し、探究型学習へとつながることを意識して作成しなければならない。

今回の実践では、話し方、聞き方のポイントを理解し、友達とスピーチを通して考えを交流させながら判断力、表現力を養う学習を、学習シートを用いたことで楽しく意欲的に行うことができた。また、「評価・一般化学習」で用いた振り返りシートでは、単元を通じた自己の学びを振り返り、経験や生活に生かそうという姿勢を養うことができた。

学習シートを活用することで、言語技術に不安のあ

る生徒も自信をもって学習することができる。また、十分に指導事項を理解している生徒でも、習熟度別学習シートを用意することで、より自分の個性を発揮することができると考えられる。

（2）今後の課題

①より短時間で効果的な授業構想を

今回、授業時間内に生徒がスピーチ原稿を書き上げることができなかった。書き上げられない生徒には、次時までには作成するよう指示を出した。そのため、スピーチ練習をすることができず、スピーチ発表の際、多くの生徒が原稿を読んでいる状態であった。

限られた授業時間数という条件の中で、より短時間で学習の成果をあげられるように指導事項を精選し、中学校3年間を見通して、授業を構想していく必要がある。

また、本単元で扱った学習シートは学習内容が多かったため、多くの時間を割いてしまった。単元に必要な学習事項を精選し、より短時間で明快に理解することができる学習シートを開発していく必要がある。

②学習の振り返りの時間を十分確保した授業計画

生徒が学習を振り返ることで、自己の学習を自覚し、定着させることができる。また、授業時間ごとに振り返ることで、学びと課題を自己認識し、次時の学習目標につなげることができる。さらに、単元全体を振り返ることで、自己評価能力・メタ認知能力を高め、学習の一般化を図ることができる。

今回の実践では、振り返りの時間を多く確保することができなかった。そのため、自己の良さに気付くことができなかったり、友達のスピーチの良さや課題に気が付かなかつたりした生徒が多かった。わかったこと・考えたこと・友達の考えや意見の良さを伝え、疑問をもち、相互に学び合いを発展させることができるスピーチ活動を行うためには、学習を振り返る時間が必要である。

今後は、自分の考えを伝え、他者の良さを見つめ、心から互いを認め合えるような生徒を育てるために、十分な振り返りの時間を確保していきたい。

Ⅳ 授業づくり実践(教師力向上実習Ⅱ)

判断力・表現力を高める国語科授業  
ーパネルディスカッションを中心にー

1 テーマ設定の背景と実践計画

新学習指導要領では「知識基盤社会」「生涯学習社会」における「自立・協働・創造」的な学習モデル開発が求められ（2013年4月答申、6月閣議決定）、教育課程全体を通じて「言語活動の充実」が重視されている。中学校1年でも「基礎・基本的な知識と技能（習得）」から「思考力・判断力・表現力等（活用）」へ至る指導過程の中で国語科だけでなく、限られた授業時数の中での他

教科・領域・活動でも応用することができる、「系統的・横断的な授業システムの開発」が必要である。

本実践で行う「バズセッション」は、あるテーマ・課題をもとに少人数グループで自由に話し合いを行い、得られた結論をグループの代表者が発表、参加者全体としての話し合いを行う討議の手法の一つである。

「バズセッション」は少人数で話し合いを行うため、集団の一員としてより良い話し合いに参画し、諸課題を解決しようとする自発的な課題解決能力と話し合いのための基礎・基本的な態度を育成することができる。

また、基礎・基本学習（習得）を踏まえた話し合いを行うことで、自分の考えを目的や相手・場面に応じ、的確に説明・分析・評価し、友達の意見の特色や良さ、背景を知り、テーマを深めるための司会・運営の技術等を身に付けることができる。

さらに、友達と話し合い、互いの立場を理解し、互いに認め合うことで協力的・協働的な態度を養い、今の生徒に必要な能力としての合意形成\*や意思決定能力（思考力・判断力・表現力等）を育て、新たな価値観や生き方を創造する基礎的・基本的な能力をはぐくむことができる。

\*合意形成・・・利害関係者が合意を目指す話し合いのプロセス

〔表3〕「習得・活用」の段階的な学習計画

段階	時	学習内容
習得 (導入・基礎・基本)	1	1 バズセッションの映像を見る。 2 バズセッションについて知る。 3 様々な発表方法を知る。 4 司会、書記、参加者の役割を知る
	2	1 話し合いのルールや方法、話し合いの型、話型を理解する。 2 メモの取り方について学習する。 3 ミニバズセッションを行う。
	3	1 課題文「つみきのいえ」を音読する。 2 課題文の象徴性についてクイズ形式で学ぶ。 3 課題文の自分なりの題名と結末を考える。
	4	1 グループでバズセッションを行う。 2 次時の報告のため準備をする。
活用1 (発展)	5	1 各グループの代表が学級全体に対して発表する。 2 単元全体を通して学んだことや考えたことを振り返る。

2 実践内容

(1) 導入・基礎学習【習得型学習】(1時間)

バズセッションに学習意欲をもたせるため、ビデオを見せ、話し合いのモデルを参考に実際に話し合いを行った。ビデオにより話し合いのモデルを示すことで、生徒に到達目標を視覚的に確認させることができた。

学習シートでバズセッションの形式や進め方を学習した。その後、ビデオで示した話し合いのモデルの台本を配付し、生徒に「司会」「書記」「参加者」と役割分担をさせ、台本通りに2回音読させた。その後、ビデオや台本読みを通して、「司会」「書記」「参加者」の役割やポイントについて気が付いたことを記述させた。

(2)発展学習【活用型学力1】(2時間)

発展学習では、基礎学習において身に付けた話合いのルールや方法、話合いの型、論理的に意見を述べる話法をもとに話合いの技術を身に付ける実践を行った。

### ①習得から活用へのステップ(確実な習得)

本時の導入で、話し合いの必要性を感じさせるために、話し合いが使われている場面を例にし、学習シートをもとに学習を進めた。他教科、道徳、特別活動、委員会、生徒会等の場面や社会の重要な場面において必要なスキルであること知らせ、学習を生活の中で活用することができる点を伝えた。

その後、前時に学んだ「司会者」「書記」「参加者」の役割やポイントを確認した上で、ミニバズセッションを行った。ここでは、それぞれ役割のポイント、話合いのルールや方法、話合いの型、論理的に意見を述べる話法等を実践した。話合いのモデルから学んだルール、方法、ポイント等を実践することで、話合いの技術が実践的であり、有効であることを実感させた。  
(資料 2 参照)

## ②論理的に判断・再構築する学習段階

教材文「つみきのいえ」の読み取りを行い、次時に行うバズセッションのテーマについて意見をもたせた。学習シートを工夫し、教材文を短時間でわかりやすく、正確に理解させた。

寓話である「つみきのいえ」の描写・象徴から作者のメッセージを読み取らせる必要があった。そのため、描写・象徴をクイズ形式で出題し、楽しくわかりやすく、短時間で理解させた。

その後、次時に行うバスセッションのテーマについて、自分の考え・意見をもつ時間を設けた。

(3)発信・交流学习【活用型学力2】(1時間)

導入では、習得の段階で身に付けた司会進行のポイントを確認した。その後、各グループにわかれ、バズセッションを2回行った。

「司会者」には、前時までの司会進行のプリントや話し合いモデルの台本等を参考にさせた。「書記」には、記録用シートを配付し、班員の意見を比較・分類して記録するよう指示をした。「参加者」には、メモ用シートを配付し、自由にメモさせた。「司会者」に、学習シートを参考にしながら進行させることで、スムーズな話し合いを行うことができた。「書記」に、色ペンを使わせることで、意見を比較・分類しながら記録用シートに記録することができた。「参加者」に、自分の意見を伝え、班員の話聞きながら、必要なことはキーワード化させることで、メモをとることができた。

バズセッション 1 回目を 15 分間行った後、役割ごとに自己評価を行った。自分の話合いを評価し、不足している点を確認した。2 回目のバズセッションで各自不足した点を話合いで意識的に行うよう指示をした。役割ごとに項目を作成して自己評価したことで、2 回

目のバズセッションでは、その自己評価をもとに目標を立てることができた。(資料3参照)

バズセッションを2回終えた後、次時の発表のための準備をさせた。ホワイトボードを用い、発表しやすいように、レイアウトを考えながら準備をさせた。


資料2 司会進行シート

話題をとらえて話し合う「パズルセッション」をする！


目標は正しい答えをつかもう

一年 組 名 前

<p>4 話し合い</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>
<p>3 話し合い</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>
<p>2 テーマ確認</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>
<p>1 はじめの言葉</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>	<p>① 全員が進行 ② 今までの1人1人 ③ 彼が2人話します。 ④ 全員が参加し ⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。 ○×をい、お話しします。</p>



① 全員が進行  
② 今までの1人1人  
③ 彼が2人話します。  
④ 全員が参加し  
⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。  
○×をい、お話しします。



① 全員が進行  
② 今までの1人1人  
③ 彼が2人話します。  
④ 全員が参加し  
⑤ 全員が話し入ります。今週のテーマに対する意見や感想を皆で決まていきます。  
○×をい、お話しします。

資料3 話し合い中の自己評価シート

役割		確認内容
司会者	最初に「テーマ確認や時間設定を示す」ことができた 公堂に参加者の意見を聞くことができた 質問を受け付け、疑問点を明らかにすることができた 賛成・反対意見を受け付け、議論を活発にすることができた 例の発言につなげて意見を求めることができた 前「○○という意見に対してのようにはいきまか？」 共通点や違う点を整理しながら司進行することができた キーワードでメモすることができた なるべく早くメモすることができた 賛成・反対、違う立場なグループピングしてメモすることができた 必要に応じて、状況報告することができた 書記にお願いして、状況報告を言うことができた 出座者でなく参加者として積極的に参加できた 意見に理由を付けて発言することができた 感情的にならず、冷静に話を合行することができた 相手の考えを尊重し、しっかり聞くことができた	一回目 二回目
参加者	考ええに対して意見を言うことができた 質問や付け足し、賛成意見、反対意見を言うことができた	

資料4 単元振り返りシート

聞き方		話し方	
④	③	②	①
自分の意見との共通点、相違点を考えながら友達のことを聞くことができた。	友達の考えを尊重しつつ聞くことができた。	聞き手の反応を見ながら、声の大きさや速さ、間の取り方、抑揚などを工夫して話すことができた。	話し方の話題をとらえて、自分の意見を言うことができた。

②話し方、そして聞き方について、◎、○、△、□で自己評価をしなさい。

① 1. 「これまでの授業を振り返って、わかったこと」や「考えたこと」を書こう！  
 ① わかったこと（②は含み）  
 ② 思ったこと（③は含み）  
 ③ 考えたこと  
 ④ 友達のスピーチを聞いて学んだこと

② 考えたこと 授業を通じて「これは大切だ」と思ったこと、他教科や活動、人間関係に生かしていきたいことなど

(4)評価・一般化学習(1 時間)

前時に話合った内容をホワイトボードを用いて、グループごとに発表させ、その後、質問や意見を出し合った。発言では、自分のグループ意見の良さを他グループとの比較から述べる姿を見ることができた。

単元の最後に、振り返りシートによる自己評価を行った。振り返りシートでは、①単元を通して「わかったこと」(学んだこと)、②「考えたこと」の 2 点を記述させた。単元全体を振り返ることで「学びの到達度」(到達目標、評価基準)の確認や新たな課題・疑問の発見等、探究型学力(国語科学習から他教科への活用)につながる学習の「メタ認知能力」(自己評価能力)を育成した。(資料 4 前項参照)

3 実践の考察

(1)実践の成果

本実践では、他教科、学校教育活動全体に生かすことができる「話し合いのための基礎・基本的な能力」を育てるという観点から「バズセッション」の学習を通して、各役割に応じた技術を習得し、活用することに焦点化して指導を行った。

実践の成果の要点を以下 2 点にまとめる。

①話し合いのスキルを国語科授業で

単元全体の振り返りでは、以下のような記述が見られた。(一線は鈴木による、以下同じ)

- 相手の意見と自分の意見を比べて話し合いをすることができた。反対意見を言うときも、相手の意見を尊重しながら言わなきゃいけないことがわかった。
  - 今まで僕は、自分の意見ばかりを尊重していたけど、この話し合いを通して相手の意見を尊重し、それにつなげて話すとうまい話し合いができるとわかりました。
  - 他の人の意見を聞く時には、自分の意見と照らし合わせながら聞くとより良い意見が出来ることがわかった。また、話す時にはきちんと理由をそえると説得力のある意見になることがわかった。

生徒の振り返りから、「バズセッション」を行うことで、集団の一員として、より良い話し合いに参加し、基礎・基本的な能力・資質を育成することができた。

また、友達と話し合い、互いの立場を理解し、認め合うことで、より良い合意形成や意思決定能力(思考力・判断力・表現力等)を育てることができた。生徒の振り返りから、話し合いによる関わり合いの中で、互いの良さや相違点を捉え、判断して自分の意見を形成し直し、より良い意見を出そうとしている姿が見られる。

意見と根拠(理由)、自分の考えや立場を明らかにし、相手の反応を踏まえながら発言し、話題や議論の流れを的確に捉えて話し合いをさせることができた。自発的・自治的に話し合いを進めるための型を身に付けさせることができた。

②他教科、学校教育活動、生活への活用を意識した授業づくり

単元全体の振り返りでは、以下のような記述が見られた。

- 相手の意見を尊重しつつ、話すことをこれからの友達付き合いに生かしていきたいです。そうするとなんとなく、会話がはずむと思います。さらに、共通点等も、理科では、活躍すると思います。
  - 話し合うことは、日常生活でも経験することだから、相手に「伝える」ことが大切。
  - バズセッションという話し合いの形式は、スムーズに話し合いの結果を出すことができるので、これから先、実際に使ってみてと思った。
  - 考えたことは、人の意見を聞いて、自分の意見との共通点を見付けたり、考えたりすることが大切だということです。これからの活動にも生かしていきたいです。
  - これからいろんなことがあると思うけど自分の考えだけでなく相手の考えやいろいろな人の考えを尊重して人間関係に生かしていきたいです。
  - 話し合うときは、今までのバズセッションでやってきたことを台本でやったようなわかりやすい話し合いができると他の活動にも生きてくると思いました。

単元全体を通して、他教科、学校教育活動、生活への活用を意識した授業づくりを行った。学習シートは「何を」「どのように」学べばよいのかという到達目標を明確化し、生徒にとっても教師にとっても、学びのプロセスが一目で把握することができるようにした。

また、横断性を意識した学習内容・学習シートを作成することで、様々な教科や学校教育活動に応用することができることに気付かせることができた。

そして、教科書に話し合いのポイントが示されているが、バラバラに掲載されているため、非常に見にくくなっている。話し合いのスキルをまとめ、1つの学習シートとして作成したことで、すべての生徒にわかりやすく理解させることができた。

さらに、意見交流の場で用いた自己評価シートでは、一回目の話し合いを振り返り、交流のための聞き方、話し方の観点を確認した。自己評価をもとに、2 回目の話し合いを行うことで、1 回目不足していた点を意識的に自分の意見交流に生かし、改善することができていた。多くの生徒が、1 回目の自己評価よりも 2 回目の自己評価の値が伸びた(表 3 参照)。そして、意見交流の度にこのシートを繰り返し使うことで、どのような点に気を付けて発言を聞き、どのような点に気を付けて話したらよいのかという観点到習熟し、交流の質も向上するようになると考える。

[表 3 話し合い後の自己評価]

	司会者	書記	参加者
1 回目	11、3	11、1	13、1
2 回目	12、8	12、0	15、0

\*◎、○、△の三段階で自己評価。司会者と参加者は 6 項目、最高 18P。書記は、5 項目、最高 15P。表示した値は平均値。

(2)今後の課題

①「話し合い」の評価

「学び合い・交流」の学習は「聞く・話す・関わる、解釈・判断し評価する、背景や意図を読み取る、改善案の



提出、より良い合意形成に至る…」等様々な能力を駆使して行われるという意味で、いわゆる活用型の学習と言える。そのため、各段階において、どの能力をはぐくませるか評価規準(到達目標としての評価基準・学力)を明確に設定しておかなければ、単なる活動型の学習になりかねない。本実践では、各段階において国語科5観点のどのような能力をはぐくむのかを明確にしておく必要があった。そこで、「話し合い・交流」における学習段階(学びのステップ)やそこで身に付けさせたい学力・資質を以下の6段階に整理して示す。

- ①身近な生活の諸問題から、価値ある題材(論ずるに値する議題)を設定することができる…【課題発見能力】

②見通しをもって話し合いの計画を立てることができる…【学びの計画能力・場面や条件の理解能力】

③司会・記録・報告者等の役割を考え、必要な分担を行うことができる…【役割分担と組織的な対応力】

④自分の考え・意見をもつことができる(考えの立場・こだわり、特色の自覚)…【考え・解釈の形成】

⑤一人一人が意見を述べ合い、考えを深めることができる…【公平で個々が尊重された雰囲気・主体性】

⑥集団としてのより良い結論・合意形成を導くことができる…【実践可能な合意形成と行動化】

\*①、②、③で交流の準備をし、④で熟考、⑤で話し合い・討議、⑥で考えの発展・統合・合意形成を行う。

以上のように「話し合い」を6段階に示すことはできたが、各段階における評価規準(基準)を明確にすることはできなかった。各段階における評価規準(基準)を明確にし、話し合いを適切に評価することが今後の課題である。

## V 今後の課題と展望

### 1 なぜ判断力を高めるのか

学習指導要領の改訂は、中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)』(2008年1月)に基づいて行われ、国内外の各種学力調査等の実態把握から鮮明に浮かび上がった日本の義務教育の実践課題の一つが、「活用力」の不十分さであった。

今回の改訂で主体的な課題解決能力としての「思考力・判断力・表現力等の育成(活用力)」が重視された。その中でも今回の改訂で「判断力」の文言が入ったことが特に重要であると考えられる。

「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な」判断力と明記されているように、基礎・基本を全員に徹底させることが重要であること、そして、「課題を解決するために」生かされる能力として、「判断力」が位置付けられている。習得(基礎・基本)から活用(発展・発信・交流)への接続として「判断力」が重要なキーワードであると言える。

「自分の考えをもつ」ためには、様々な情報を取捨

選択し、自分自身で「判断」しなければならない。友達の意見・家族・伝統や文化・歴史等について「判断」することで価値観を形成し、自分の意見をもつことができる。今後は、表面的な内容理解の学習ではなく、「自分の考え＝判断・価値観」をもてる学習が求められる。

### 2 小中高校への系統的「教科カリキュラム」開発

「第2期教育振興基本計画(答申)」で、「(変化の激しい日本社会に対応できる)生き抜く力」「自立・協働・創造」の育成、そのために必要な「21世紀にふさわしい学び(21世紀型学力)」の創造・開発が求められている。

また、小中学校で行われている全国学力・学習状況調査の継続的実施、大学・大学院教育の質保証をめぐり、高校教育の内容やコアの見直し(「高校総合」が「必修科目」に設定等)だけでなく、全国の高校入試制度や試験問題の内容・質の変化が今後予想されることも教育改革の一環と捉えることができる。

新学習指導要領には、「話し合い」指導が小学校低学年から高校1年生(高校総合)まで位置付けられている。小中学校から高校までの「学びの系統性」を意識した配列を読むことができる。

今回、中学一年で[A話すこと・聞くこと]の指導領域を中心とした単元を実践することとなった。系統性を意識した単元構想を行うことで、中学一年段階で必要な言語技術や到達目標を明確にし、段階的なステップを踏んだ学習を保障することができる。

これにより、中学校二年、三年、高校になって「話したいことはあるが、それらを判断し、適切に表現するために、再構築することができない」という状況になることがない。系統性を意識した単元を構想することで、到達目標(評価基準)を明確にし、「思考力、判断力、表現力」を段階的に身に付けさせることは、子どもの学力保障に結び付く。(資料5 次項参照)

今後、子ども達に確実な学力を身に付けさせ、一人一人が個人として自立し、自己の個性・能力を生かし、他者と協働しながら新たな価値観や生き方を創造していく柔軟な姿勢をはぐくむために、系統的な視点から教科カリキュラムを作成する必要がある。

### 3 他教科、道徳、特別活動、学校教育活動に生かせる横断的「教科カリキュラム」開発

戦後約60年ぶりに改正された新教育基本法・学校教育法では、学力の重要な3要素(基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学習意欲と習慣化等)とともに、各教科等における「言語活動の充実」が明記された。

国語科の言語活動例が「3内容の取り扱い」から「2内容」へ格上げされ、国語科の言語活動に対して「指導と評価」をすることになった。つまり、国語科の「言語活動の充実」は、他教科、学校教育活動全体の目的や目標を実現したり解決したりする手段・方法として機能するための「基幹教科」であると言える。言語教

	各領域のキーワード	学校段階、学年段階ごとの指導事項						
		小学校			中学校			高校
		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	1学年	2学年	3学年	国語総合
話題設定	＊・話題設定 ・キーワード化 ・情報の収集 ・効果的な説明技術 ・資料の選択・判断	ア・話題を決める （身近、経験） ・必要な事柄を思い出す	ア・話題を決める （関心） ・必要な事柄について調べ、要点をメモする	ア・話題を決める （考え、伝えたいこと） ・収集した知識や情報を関係付ける	ア・話題を決める （日常生活） ・話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理する	ア・話題を決める （社会生活） ・話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理する	ア・話題を決める(社会生活) ・自分の経験や知識を整理して考えをまとめる ・資料などを活用して説得力のある話をする イ・場の状況や相手の様子に応じて話す ・敬語を適切に使う	ア・様々な角度から検討して自分の考えをもつ ・論理の構成や展開を工夫して意見を述べる  イ・効果的に話したり的確に聞き取ったりする
系統性		＊・話題設定 ・記憶想起	＊・話題設定 ・メモの技術 ・キーワード化	＊・話題設定 ・資料選択・判断	＊・話題設定 ・資料の収集・整理	＊・話題設定 ・多様な資料の収集・整理		
話すこと	＊・話す姿勢、態度 ・話型、相手意識 ・話の論理的構成 ・目的や条件に応じた資料の活用	イ・話す事柄を順序立てる ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す ウ・はっきりした発音で話す	イ・理由や事柄などを挙げながら筋道を立てる ・丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す ウ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す	イ・話の構成を工夫 ・場に応じた適切な言葉遣いで話す ウ・共通語と方言との違いを理解する ・必要に応じて共通語で話す	イ・全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成する ・相手の反応を踏まえながら話す ウ・知識を生かして話す	イ・話の中心的な部分と付加的な部分などに注意する ・論理的な構成や展開を考えて話す ウ・資料や機器などを効果的に活用して話す		
系統性		＊・話の構成 ・「話し言葉」の知識 ・話す声量	＊・論理的な話の構成 ・「話し言葉」の知識 ・話す速さ、間	＊・論理的な話の構成 ・話す口調	＊・論理的な話の構成 ・話し相手意識 ・知識、経験の活用	＊・論理的な話の構成 ・資料、機器の活用	＊・話題設定 ・資料の効果的活用 ・論理的な話の構成 ・話す場面意識	＊・論理的な話の構成 ・効果的な発信の工夫
聞くこと	＊・正しく、正確に聞く ・主張の理解 ・具体的な選択、論理的な構成の理解 ・自己の経験、既習事項との比較	エ・大事なことを落とさない ・興味をもって聞く	エ・話の中心に気を付けて聞く ・質問をしたり感想を述べたりする	エ・話し手の意図をとらえながら聞く ・自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	エ・質問しながら聞き取る ・自分の考えとの共通点や相違点を整理する	エ・話の論理的な構成や展開などに注意して聞く ・自分の考えと比較する	ウ・聞き取った内容や表現の仕方を評価する ・自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりする	エ・内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行う ・自分の話し方や言葉遣いに役立てる ・ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする
系統性		＊・話のポイント ・話への興味、関心	＊・話のポイント、観点 ・自分の考えをもつ	＊・話し手の理解 ・意見の比較	＊・話し手との対話による聞き取り ・意見の比較、分類	＊・論理的構成の理解 ・意見の比較	＊・内容評価 ・自己への取り入れ	＊・内容評価、メタ評価 ・自己への取り入れ
話し合うこと	＊・豊かに関わる ・立場と課題意識 ・発信スタイルの活用 ・考えの価値と個性 ・合意形成・意思決定能力	オ・互いの話を集中して聞く ・話題に沿って話合う	オ・互いの考えの共通点や相違点を考える ・司会や提案などの役割を果たす ・進行に沿って話合う	オ・互いの立場や意図をはっきりさせる ・計画的に話合う	オ・的確に話す ・相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる	オ・相手の立場や考えを尊重する ・目的に沿って話合う ・互いの発言を検討して自分の考えを広げる	エ・進行の仕方を工夫 ・互いの考えを生かし合う	ウ・相手の立場や考えを尊重する ・表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話合う

注)＊の部分は、鈴木による考察やまとめである



〔資料6〕 判断力・表現力・教科の学び（試案） - 各教科の指導事項のポイントから - 中学一年生、各教科の指導事項を横断的に整理したもの（2014年1月31日作成）

各教科の指導事項（中学校一年生）								
国語		数学	社会	体育	美術	音楽	道徳	特別活動
領域	A 話すこと・聞くこと	第2節 内容 ⑦説明し伝え合うこと	地理的分野	ア 改善の基本方針	B 鑑賞	2 内容 (1) A 表現	4 表現し考えを 深める指導の工夫	4 学級活動の内容の 取扱い
学習指導要領	<p>ア 日常生活から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること</p> <p>イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し相手の反応を踏まえながら話すこと。</p> <p>ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについて知識を生かして話すこと。</p> <p>エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること</p> <p>オ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめることができる。</p>	<p>こうして言語で表されたものは、自分の考えを見つめ直す反省的思考を生み出し、さらに研ぎ澄まされたものとなっていく。この自己内対話の過程は、<u>他者とのコミュニケーションによって一層促進され、考えを質的に高める可能性を広げられる</u>。説明し伝え合う活動における他者とのかわり合いは、一人では気付かなかった新しい視点をもたらし、<u>理由などを問われることは根拠を明らかにし、それに基づいて筋道立てて説明する必要性を生み出す</u></p>	<p>エ 世界の様々な地域の調査 世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題を設けて追究し、世界の地理的認識を深めさせるとともに、世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。</p> <p>（内容の取り扱い）エ エについては、様々な資料を<u>的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したり</u>するなどの作業的な学習活動を取り入れること。また、<u>自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させること</u>。</p>	<p>体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じて<u>コミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむこと</u>にも資することを踏まえ、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。</p>	<p>ア 造形的なよさや美しさ、<u>作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働き</u>などを感じ取り、<u>作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること</u></p>	<p>話し合いの場面を設けて<u>生徒同士で音楽表現を練り上げていく過程や、表現を聴き合い客観的にとらえ、それを更なる工夫につなげていく過程</u>などを重視した指導を工夫することが大切である。</p>	<p>学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけでなく、<u>コミュニケーションや感性、情緒の基盤である</u>。道徳の時間においても、その言葉を生かした教育についての充実が図られなければならない</p>	<p>（1）〔学級活動〕及び〔生徒会活動〕の指導については、指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、<u>生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにするとともに、内容相互の関連を図るよう工夫すること。また、よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること。</u></p>
横断的な力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題設定</li> <li>・資料の収集・整理</li> <li>・論理的な話の構成</li> <li>・話す相手意識</li> <li>・知識、経験の活用</li> <li>・話し手との対話による聞き取り</li> <li>・意見の比較、分類</li> <li>・流れに沿った話し合い</li> <li>・意見の再構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的な話の構成</li> <li>・知識、経験の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や条件に応じた資料活用と構成</li> <li>・効果的な説明技術</li> <li>・資料の収集・整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的な話の構成</li> <li>・条件に応じた的確な発信</li> <li>・流れに沿った話し合い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の「考え」の発信</li> <li>・テーマ・メッセージ理解</li> <li>・知識、経験の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ・メッセージの理解</li> <li>・意見の再構成</li> <li>・話し手との対話による聞き取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識、経験の活用</li> <li>・話す相手意識</li> <li>・流れに沿った話し合い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合意形成・意思決定能力</li> <li>・話し手との対話による聞き取り</li> <li>・意見の比較、分類</li> </ul>

注 1)—線部は全教科に生きる、コミュニケーション能力・判断力・表現力

注 2)～線部は教科固有の学びの特性や言語力

育の中枢を担う国語科の役割が一層高まった。

以上を踏まえ今回の実践では、国語科の「A 話すこと・聞くこと」の領域において、「スピーチ」「話し合い」に焦点化して実践を行った。各教科において「言語活動の充実」が明記されて以降、多くの場面で「話し合い」が行われている。他教科、道徳、特別活動、学校行事等で言語活動を充実させるため、以前と比較して、グループによる「話し合い」が取り入れられるようになった。国語科において「話し合い」の技術を習得させることで、「自分の立場・関心から情報を的確に理解・解釈したうえで、目的・条件等に合わせて判断・主張をまとめ、わかりやすく説明する能力」や「友達の意見の良さや背景を考えながら正確に聞く能力」「交流・討論の司会や方法、交流や議論をより深める進行」等の能力を育成することができた。(資料6 前項参照)

「話し合い」の能力は、国語科だけでなく、他教科、道徳、特別活動、総合的学習との関連においても必須の今日的課題であると考え。国語科は、言語教育の中枢を担うため、今後さらに横断的な視点から教科カリキュラムを作成していく必要がある。

## VI 教師生活に向けて自己課題

### 一自立・協働・創造に向けた言語能力の育成一

多様で変化の激しい社会の中では充実した人生を主体的に切り拓き、他者と共に支え合い、新たな価値を創造していく能力を育成する必要がある。

そのような能力の育成のために「言葉」が重要になると考える。人は、「言葉」を通して、他者を理解し、共感することで、互いに関わることができる。また、「言葉」によって、自己の感情や思い・考えを表現することで、自己を解放することができる。

国語科授業はもちろん、他教科、道徳、特別活動、学校生活等で言葉の大切さ・重要性を伝え、子どもの言語能力を育成していきたい。

## VII おわりに一教職への思い一

サポーター最終日、実習クラスの生徒達から手紙もらった。実習2年目、5月から関わった男子生徒(以下D)の手紙には次のように書かれていた。

『体育祭の練習の時に自分が長縄で跳べなくて、大文先生に長縄の跳び方を教えてもらって、できるようになりました。合唱コンクールの時もどうすればきれいに歌えるか大文先生に教えてもらい、歌うことができました。(以下略)』

Dの手紙には自分ができるようになったことが書き連ねられていた。多くの生徒が「さようなら」「頑張ってください」と書いている中、この男子生徒は別れを匂わせる言葉を一切用いていなかった。そして、手紙の最後に「来月からも来てください」という言葉が書き添えられていた。

Dは、授業中に黙って座ることができず、友達にイタズラをしたり、何度も授業を抜け出したりしていた。そのたびにDと話をし、何度も言葉を交わした。

Dの手紙を見て、私は涙を止めることができなかった。心と心でぶつかりあった対話は、しっかりとDの胸に響いていたのだ・・・。

来年度から私の教員生活がスタートする。何年、何十年と月日が経とうとも、私はDから学んだ「言葉による心と心の対話」の大切さを私は忘れない。男子生徒から学んだことを生かし、今後、理想の教師に向かって努力し続けていきたい。

### 【主な参考文献】

- 1 文部科学省関係 「第2期教育振興基本計画」(中央教育審議会答申・2013年6月閣議決定)、「児童生徒の学習評価の在り方について(答申)」(同・2010年)、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(同・2008)、『中学校学習指導要領』(同・2008)「熟議に基づく政策形成展開」(2010)「子どもたちの話し合いと実践で創り出すよりよい学級・学校生活～特別活動で育む「生きる力」～【小学校版】」(2010)「子どもたちの話し合いと実践で創り出すよりよい学級・学校生活～特別活動で育む「生きる力」～【中学校版】」(2010)、「児童生徒の学習評価の在り方について(答申)」(同、2010)「これからの時代に求められる国語力について」(文部科学省、2004.2)、「評価基準作成のための参考資料(小学校)」(国立教育政策研究所、2010他(省略))。
- 2 実習校関係 『平成25年度 学校経営案』(豊橋市立A中学校、2013)その他。
- 3 実践関係 左近妙子「書くことの指導」『教育科学国語教育2010年10月臨時増刊号』(明治図書)、加藤洋佑「思考力・判断力・表現力」を育てる鑑賞文指導(日本国語教育学会・全国大会発表資料、2013年8月6日)、有田弘樹(教職大学院卒業生)「伝統的な言語文化(古典)における『習得』『活用』の授業・評価開発一『平家物語』『扇の的』(光村・中二)を例に一」(豊橋市立A中学校、2011.10)佐藤洋一(講演資料)「なぜ国語を学ぶのか一勉強が好きになる5つの力一」(2012年)、「日本の子ども達に足りない点は?一『言葉』と向き合い背景を読み取る力、判断・批評、想像力・創造力一」(2013年)、同「教師のためのコミュニケーション論」(同)、同「授業力力の基礎・基本」(講演要旨、第1回「愛知県教育委員会指定・ことばの学習活性化推進事情」尾張旭市、2013年)、佐藤洋一監修『わかる国語(小学校国語の総合的研究)』(旺文社、2012)、同編著『国語科「習得・活用型学力」開発と授業モデル(全4巻)』(明治図書、2011)その他。

### 【付記】

教職大学院2年間の主な実習は、「学校サポーター実習」「教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ」(豊橋市立A中学校)「教師力向上実習Ⅲ」(豊川市立B中学校)特別課題実習(豊田市立C小学校)、多様なフィールド実習(豊橋市公共施設)、実習中は多くの先生方にご指導・ご助言をいただきました。今回この場でお名前を挙げることはできませんが、お世話になったすべての先生方に心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、サポーター実習・教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ・修了報告書等で熱心にご指導をしてくださった佐藤洋一先生、教師力向上実習Ⅲでご指導をしてくださった白井正康先生、ご指導・ご助言をくださった教職大学院のすべての先生方に心から感謝申し上げます。